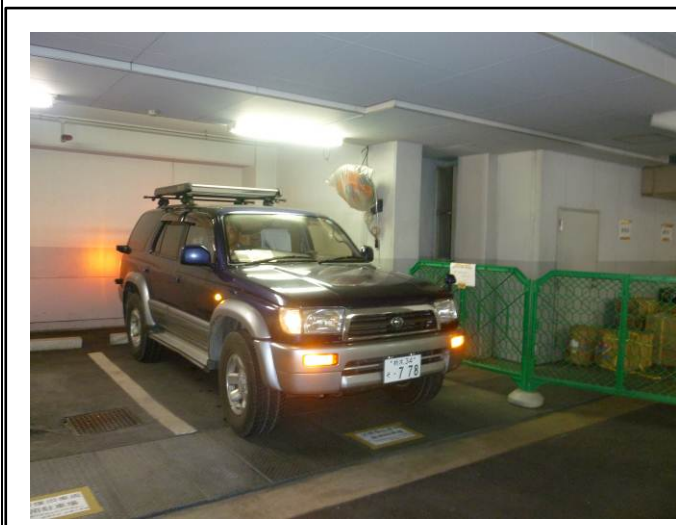


取組事例の名称		応急復旧工事における後方支援
概要	対象	後方支援活動
	種別	<input checked="" type="checkbox"/> 救援 <input type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	規模	全国エリア（鉄建建設営業エリア）
	実施会社	鉄建建設（株）
	実施場所	宮城県 県 仙台 市・町・村
	発注者	J R東日本

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称
 東日本大震災において被害を生じた東北新幹線の応急復旧工事における工事従事者の食料や工事資材等の輸送と支援要員の送迎。
 （緊急車両を活用した物資と人材の輸送システム：鉄建建設ではシャトル便と名付けている。）

2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果
 阪神・淡路大震災、新潟県中越大地震を経験した際に、食料や工事資材等の支援物資の運搬により、工事の後方支援で活躍したシャトル便を復活させた。シャトル便は物資の供給のほか、工事監督等（調査要員含む）の増員要請への対応を可能に出来、弊社社員等を前線に配置することで、応急復旧に対する資機材等の早期把握と調達時間を短縮させ、現場に対する早期の支援対応を図った。

(写真、イラスト)



東京～仙台（約360km）を往復したシャトル便



シャトル便による食料や燃料等の積み込み状況

取組事例の名称	応急復旧工事における後方支援
3. 工事等の実施に当たった課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓	<p>応急復旧の現場に対し、現地対策本部と本社対策本部と朝と夕方の2回TV会議を開催することで本社バックアップ体制を構築し、必要な物資や要員不足等の問題の情報共有を図った。本社は、応急復旧の現場をなるべく早い時間で支援するために定期的なシャトル便を配置し、現地への不足する食料や燃料及び復旧班の要員の輸送確保に努めた。しかし被災直後の燃料不足から、ガソリン関係の調達は非常に困難な状況であった。資機材の調達は、全国の各営業所に情報発信し、各地からの輸送手段を確保した上で、何とか東北への燃料輸送を行った状況である。また、応急復旧は1ヶ月を超える工期となったため、輸送には便利な缶詰等の緊急食料品だけではなく、パン等を含めた軽食品についても、シャトル便を利用し現地に届けるといった工夫も行っている。</p>
4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価	<p>シャトル便により現地と本社（関東）とのパイプ（定期的な支援物資便）が構築できたことから、限られた時間で応急復旧に対応する工事従事者のモチベーションを確保できたと考えている。特に、応急復旧の目処が立つ時期に発生した大規模な余震にて、復旧した構造物が壊れる状況を目の当たりにしている工事従事者が落ち込まないように、後方支援を持続させ、早期復旧の意識向上を図った。</p>
5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術	<p>今回の東日本大震災では、関東を含め一時的ではあるが、燃料や食料等が不足する状況を経験した。いち早く行動するにも物が無いということで、調達関係に苦労したことから、異常時の緊急材料等の計画的なストックについて今後検討していく。</p>
6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項	<p>食料や資機材のストックについては、箇所当りの数量に限られる。被災規模等にもよるが、全社を通しての数量確保の計画が重要である。そのためには、資機材等調達に関する情報ネットワークの整備を見直すことが重要だと考えている。今後は、防災訓練を通じ、本支店間の連携強化を図り、異常時対応に関するソフト面の強化を図っていきたい。</p>
NETIS登録	